

福祉部会

障害を持つ子供たちの
「トライやる・ウィーク」に参加して
福祉部会長 横井幸雄

神戸市では中学2年生の生徒に学校を離れて実社会を体験させる「トライやる・ウィーク」を実施しています。5日間の体験ですが、普段の生活では体験出来ないような活動体験を通じて、社会自立、社会参加をする力を養う事をねらいとしています。

障害を持つ子供さんも参加していますがこれには多くのボランティアの協力が求められています。

神戸市立盲学校、青陽西養護学校よりの依頼を受けました。東灘区会、中央区会、垂水区会、西区会、および個人依頼の方々の協力を頂き参加することが出来ました。

参加して頂いた区会および皆様にお礼を申し上げます。

私は全盲で知的障害、肢体障害のある生徒さんとお付き合いしました。

彼の身体能力から握った手の温もりしか気持が通じないように思いましたが、彼は「あったかーい」という言葉と「よっこいさーん」と名前を不自由な言葉で何度も呼んでくれて安堵した気持ちになりました。

彼と二人で電車、バスに乗り、農場、商店の体験をしましたが、体験先の暖かい配慮にも触れました。

お昼はお店の弁当を買って二人で食べましたが、どのように食べさせてあげればよいのか戸惑いの体験でした。

おしっこの世話も戸惑いの体験でした。彼も家庭、学校以外の人と二人だけで行動するのは貴重な体験であったと思います。私も片時も離さなかった手の感触から得た貴重な体験でありました。

家庭、学校のご苦労と大変さも、かいま見る事が出来ました。周りの方々の暖かい支援が必要と強く感じました。

共に生きる、支えあう、活動に
ちからを貸してください。

国際部会

『神戸国際交流フェア』
に参加して
国際部会長 土井昭政

さる3月15日、16日 第12回 K O B E 国際交流フェア 08 が、神戸国際交流センターとハーバーランドデュオドームとスペースシアターで開催された。

グループわ 国際部会は昨年度に引き続いてリレートークと展示に参加した。15日は国際交流センター（国際会館 20階）で、午後1時から兵庫県立大学名誉教授の末延先生の“中国などアジアの国々と日本の国際交流”と言うテーマで基調講演があり、その後、神戸在住の中国、韓国、インド、ベトナム、アメリカの人々による“外国人から見た神戸を語ろう”と言うテーマでパネルディスカッションがあった。

カレッジではお馴染みの八・テイ・タン・ガさんも参加していた。

14時30分からは“語り会おう世界と神戸”をテーマにリレートークが約9分刻みで実施され、国際部会からは国際コース11期生の川岸昭夫さんが“英語点字による国際交流”と言うテーマでHPを使い上手に説明された。内容もわかりやすく、また英語点字本の重要性を要領良く説明された。カレッジ事務局から松本リーダーも参加していただいた。

シンポジウム終了後、センターにて参加者による交流パーティーが開催され、国際部会員7名も参加して各団体の方々との交流がはかられた。



16日は、ハーバーランドのデオドームとスペースシアターで夫々関係団体の展示とパフォーマンス、各種物品、食品の販売など、楽しいイベントが開催された。

国際部会は昨年と同様にポスターと写真で、活動内容を展示した。カレッジ、グループわ、国際部会のチラシを日本語と英語で準備し、来客に配布した。フェアへの参加でグループわ および国際部会の活動が市民に少しはPRできたのではないかと考えている。



編集後記

平成20年度のスタート、いつしか葉桜の季節となり、時の移ろいの早さに驚かされるこのごろ本部では5月の総会に向けて、その準備に大忙しです。編集子もやっと1年になりましたが、いつまでたっても未熟で情報収集、投稿依頼のまずさから紙面を埋めるのに四苦八苦しています。特集の本部業務組織の改革で、広報委員会を設置して多くの方の支援を受け、情報誌とホームページを充実したものに上げていきます。幸い、新卒の12期生からKSC情報誌担当経験者の応援を受けることになり心強く思っています。

先号でお約束したアンケート調査も実施するよう準備中です。その節は、ご協力お願いします。(HM)